



気候/持続可能性への認知度を高めるための債券

ニュースレター | 2022年末

エムシャー川復旧 III プロジェクトが2022年に2億ユーロのSAB配分額を受領 (未監査データ)



QR コードを読み取り、このニュースレターを入手

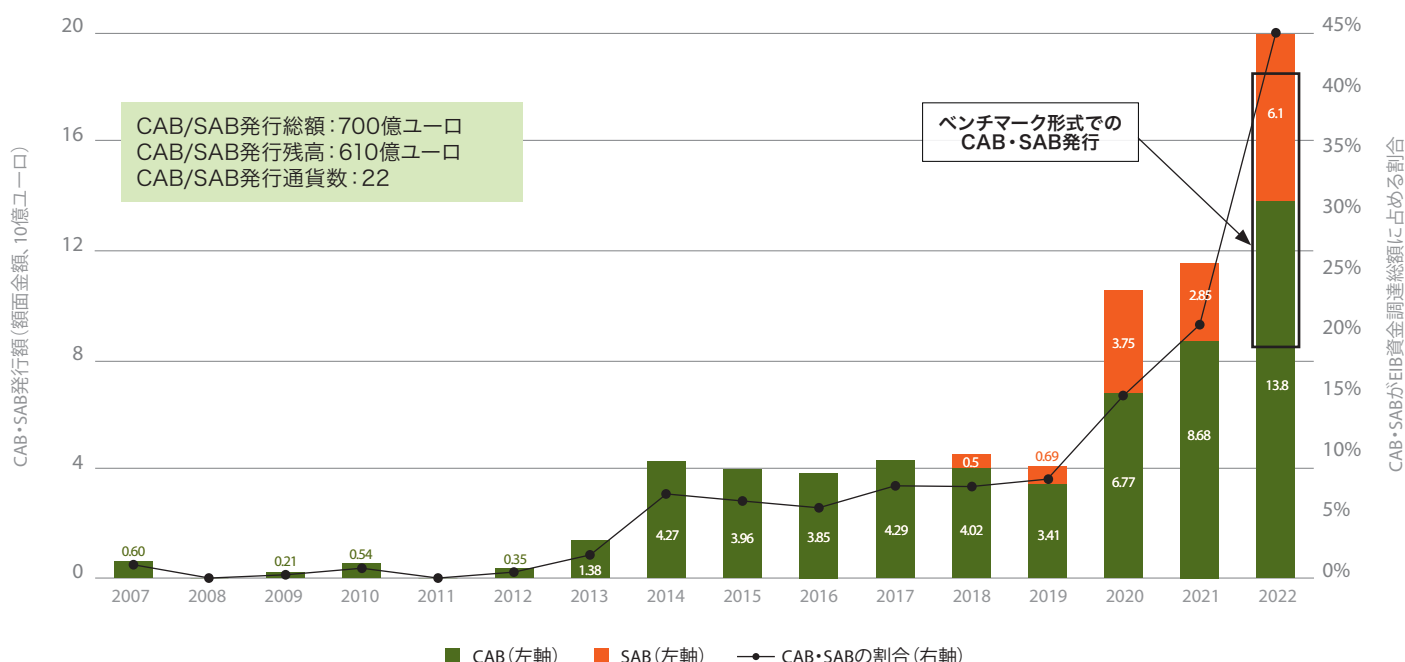
債券発行ハイライト

過去最高を記録したサステナビリティ・ファンディング

2022年のサステナビリティ・ファンディング (「気候への認知度を高めるための債券 (CAB)」および「持続可能性への認知度を高めるための債券 (SAB)」の発行) は、調達額が200億ユーロ相当に近づき過去最高を記録しました。これは欧州投資銀行 (EIB) の資金調達計画全体の45%に相当する前例のない高水準でした。この成長の要因として、CAB/SAB適格性の段階的な拡大や、EIBの気候銀行ロードマップを背景とした、EIBによる適格支出の増大が挙げられます。加えて、EUタクソノミーとの段階的整合を図る当行の戦略 (4ページ参照) が競争優位性を高めており、CABとSABの発行時における需要の強さから、このアプローチに対する投資家の信頼感が見てとれます。

2022年6月のCAB/SABニュースレター以降の注目すべき起債としては、過去最大となる40億米ドルのグローバルSAB (2027年償還) の新規発行と、それに続く40億ユーロのユーロ・エリア・リファレンス・ノート (EARN) 形式のCAB (2030年償還) の新規発行の、2銘柄のベンチマーク債が挙げられます。また、メキシコペソとニュージーランドドル (NZD) 建てのSABが初めて発行されました。一方で、CABはノルウェークローネ (NOK) 建ての2銘柄 (2027年償還の10億NOK、2028年償還の20億NOK) や、2027年償還のスウェーデンクローナ (SEK) 建てCABが、北欧の投資家を引きつけましたが、いずれも需要の中心は現地の年金基金からのものです。2022年のNZD、NOK、SEKの各市場における資金調達は、サステナビリティ・ファンディングによるものだけでした。

2022年末現在、EIBによるCABおよびSABの2007年以降の発行総額は700億ユーロ (22通貨建て) に達し、EIBは国際開発金融機関では最大のグリーン/サステナビリティボンドの発行体です。



CABおよびSABの発行は、EIBプロジェクト局が決定した一連のCAB/SAB適格融資に係るすべての適格な支出に対し、資金を配分するものでなければなりません。

調達資金の配分

気候変動への認知度を高めるための債券 (CAB)

EIBは2022年に136億ユーロ*のCABを発行しました。年間で127億ユーロの融資が、CAB発行で調達した資金の配分に適格と判断され、調達資金からの127億ユーロがEIBの配分手続きに従って該当する融資に割り当てられました。資金調達勘定CABポートフォリオ内のCAB調達資金の未配分残高は、年初時点でゼロ、年末時点で9億ユーロでした。

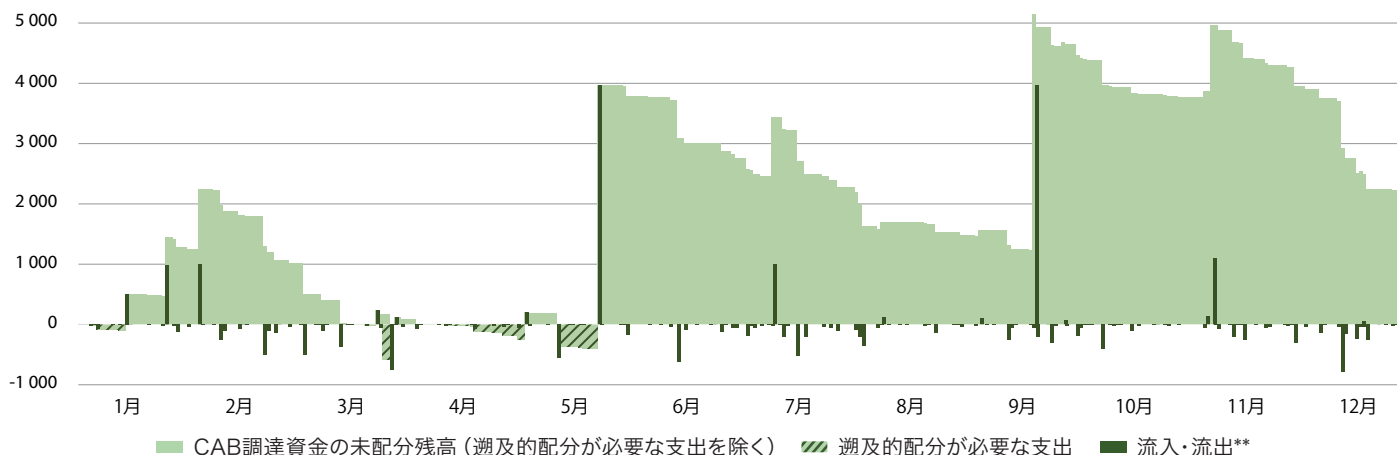
持続可能性への認知度を高めるための債券 (SAB)

EIBは2022年に59億ユーロ*のSABを発行しました。年間で42億ユーロの融資が、SAB発行で調達した資金の配分に適格と判断され、調達資金からの42億ユーロがEIBの配分手続きに従って該当する融資に割り当てられました。資金調達勘定SABポートフォリオ内のSAB調達資金の未配分残高は、年初時点で3億ユーロ、年末時点で20億ユーロでした。

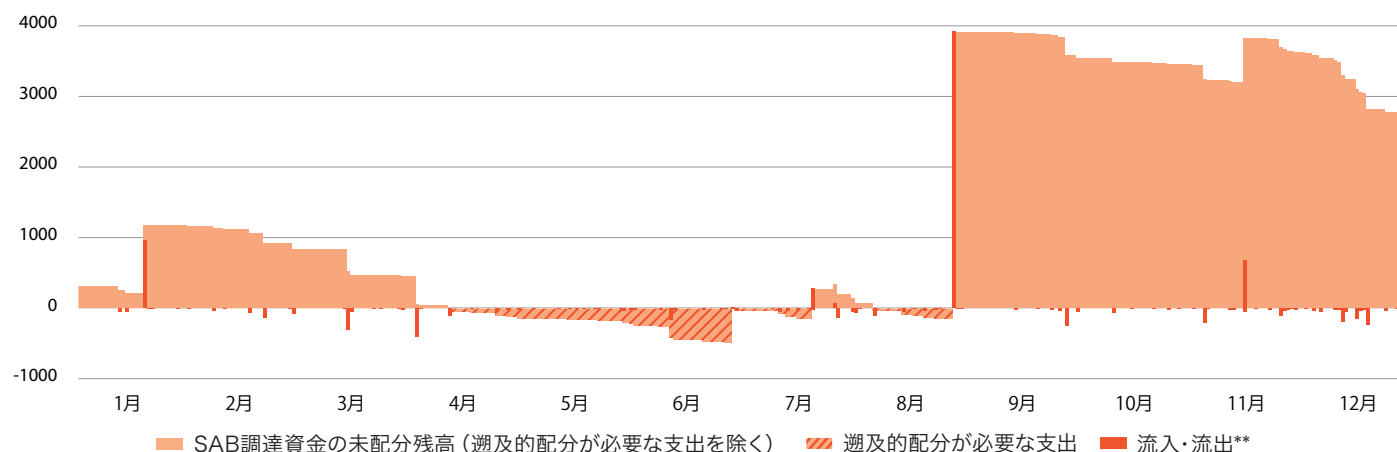
* データはCABおよびSABの発行による正味の調達資金に基づきます。

通常、CAB/SAB調達資金の未配分残高は、万一に備え十分な高水準が常に維持されています。これは、市況悪化やその他の理由（例えば、市場での資金調達の集中時期に大型起債を準備する場合など）で、債券の新規発行がしばらくできない場合でも、新たな融資への配分を確保するためです。2022年に入って最初の数か月で、適格融資の大幅な増加によってこの予防的な未配分残高は急速に減少しましたが、年内初となるCABおよびSABの大型起債（それぞれ40億ユーロと40億米ドル）は、それぞれ5月と8月まで実現できませんでした。そのため、すべての適格融資を効果的に実施するためには、これらの大型起債の調達資金を適時的に配分する必要がありますがありました。下記グラフにおける年末時点の未配分残高（適時的配分を除く）と、上記の枠線内で述べられている年末の未配分残高に差異が生じているのはこのためです。

CAB調達資金の未配分残高（百万ユーロ）



SAB調達資金の未配分残高（百万ユーロ）



** 流入はCAB/SABの発行であり残高増につながります。流出はCAB/SAB適格な融資実行への資金配分であり残高減につながります。

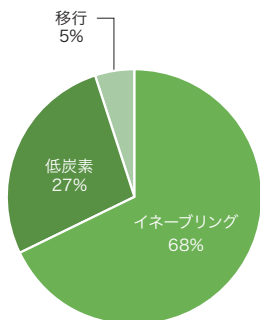
調達資金の使途 (2022年上半期)



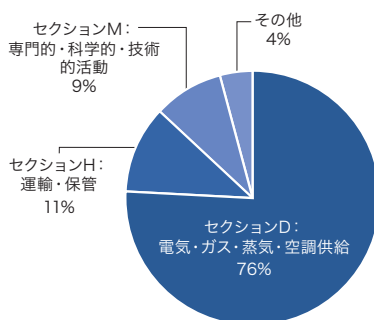
CABで調達した資金は、気候変動緩和に実質的な貢献をする活動に対するEIBの融資に配分されます。

2022年上半期の未監査データによると、24か国・66件のプロジェクトに対して55億ユーロが配分されました。このうち、53億ユーロはEU加盟19か国での60件のプロジェクトに配分され、2億3,500万ユーロは欧州連合以外の5か国・6件のプロジェクトに配分されました。

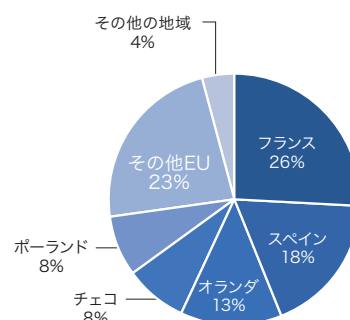
**CABの配分
(気候変動緩和への貢献のタイプ別*)**



**CABの配分
(NACE¹ マクロ・セクター別)**



CABの配分 (地域別)

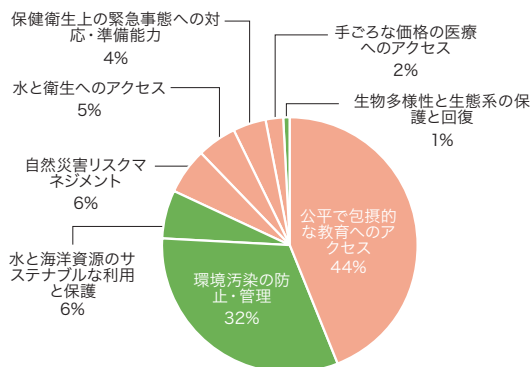


* CABの配分は「低炭素」「移行」「イネープリング」に分類されます。「移行」活動の定義に関してはEUタクソノミー規則第10条第2項を、「イネープリング」活動の定義に関しては同第16条をそれぞれ参照してください。「移行」「イネープリング」のいずれにも該当しない活動は「低炭素」に分類されます。

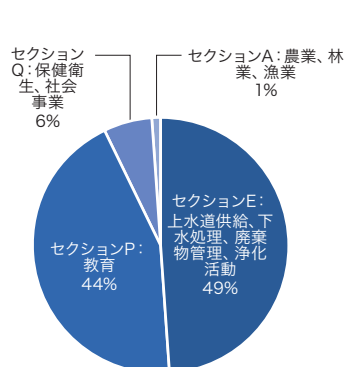
SABの調達資金は、気候変動緩和以外の環境的・社会的持続可能性目標に実質的に貢献する活動に対してEIBが行う融資に配分されます。

2022年上半期の未監査データによると、24か国・42件のプロジェクトに対して17億5,000万ユーロが配分されました。このうち、16億3,000万ユーロはEU加盟13か国での26件のプロジェクトに配分され、1億2,300万ユーロは欧州連合以外の11か国・16件のプロジェクトに配分されました。

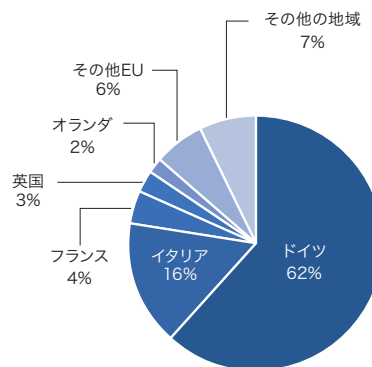
**SABの配分
(持続可能性目標別)**



**SABの配分
(NACE¹ マクロ・セクター別)**



SABの配分 (地域別)



2022年上半期におけるプロジェクト別、債券別の詳細な配分報告 (未監査データ) は以下のEIBウェブサイトから入手できます。

- <https://www.eib.org/en/investor-relations/publications/all/eib-cab-projects-2022>
- <https://www.eib.org/en/investor-relations/publications/all/eib-sab-projects-2022>

CAB・SAB適格な持続可能性目標 — 現状維持

	気候変動への認知度を高めるための債券 (CAB)	持続可能性への認知度を高めるための債券 (SAB)	
	環境	環境 (気候変動緩和以外)	社会
目標	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動緩和 (2007年) 	<p>これまで:</p> <ul style="list-style-type: none"> 水と海洋資源のサステナブルな利用と保護 (2018年) 環境汚染の防止と管理 (2018年) 生物多様性と生態系の保護と回復 (2021年) 	<p>これまで:</p> <ul style="list-style-type: none"> 水と衛生へのアクセス (2018年) 自然災害リスクマネジメント (2018年) 公平で包摂的な教育へのアクセス (2019年末) 手ごろな価格の保健衛生サービスへの普遍的アクセス (2019年末) 保健衛生上の緊急事態への対応・準備能力 (2020年) 社会的で手ごろな価格の住宅へのアクセス (2021年)

¹ NACE: Nomenclature statistique des activités économiques dans la Communauté européenne: 欧州共同体における経済活動の統計上の分類、欧州連合で使用する業界標準分類システム。

CAB/SABの新たな枠組みが示す、EUのサステナブルファイナンス関連法制への適応型アプローチの重要性

サステナブルファイナンスに関する欧州の規制・監督の枠組みは、EUの持続可能性目標に実質的に貢献する経済活動に対して、単一の分類体系を導入する方向に急速に動きつつあります。この分類は、グリーンウォッシュ（例えば、監査可能な証拠も無しに、環境に優しいと称して金融商品を販売すること）の防止を意図しており、また、インベストメントチェーン（投資の連鎖）に沿って公正な競争と効果的な情報収集を行うための条件となるものです。投資家、仲介者、資本のエンドユーザーに共通の尺度を提供し、そして投資家に自らのポートフォリオに含まれるサステナビリティ関連の投資対象などにつき報告を求めることにより、EU法制は投資家を経済における持続可能性のデューデリジェンス、評価、促進の触媒に変えつつあります。

このプロセスにおいて、調達資金の用途を限定するグリーン/サステナビリティボンドは中心的な手段となります。なぜなら、債券市場は他の金融セグメント（融資など）に比べてより動的であり、新しい投資ガイドラインに対して投資家がより迅速に反応するからです。2020年7月のEUタクソミー規則の枠組みの中で、欧州委員会は新たなEUグリーンボンド基準の確立を目指し、欧州グリーンボンドに関する規制を提案しました。市場は、報告のベストプラクティスを漸進的に開発するための物差しとして、このEUグリーンボンド基準を利用することが可能です。この提案は、EUの共同法制定者による討議を経て、2023年2月末に暫定合意に至りました。

EUグリーンボンド基準は、資金使途とEUタクソミーとの整合を図る必要性について規定しています。その評価に必要な情報、とりわけ経済活動の「環境目的への実質的な貢献」とともに考慮される、「著しい害を及ぼさない」と「最低限のセーフガード」といったEUタクソミーの原則に関連する情報は、現在のところ経済活動の中で部分的にしかり入ることができません。このため、EUグリーンボンド基準は現在、どの種類の情報が利用でき、比較評価を容易にするにはそれをどう提示すべきかを明確にする試金石として、すでに利用可能な状況です。この基準は、発行体の立ち位置、目標の内容と達成手段について明確化を図ることを目的としています。共通の基準と定義を踏まえて現状が把握され、非財務情報の開示が市場にとって明確かつ扱いやすい方法で行われるならば、発行体の適格な経済活動が現実はどう進展しているのかについて、債券投資家によるモニタリングが可能となります。これにより、グリーン・ファイナンスの効率的な価格設定を通じて、さまざまな改善が促進され進展することでしょう。

サステナビリティについてのより構造化された議論が進行中であり、資金使途についての検証と比較を可能にする証拠は、サステナブルな金融商品のラベル付けの要件となりつつあります。EIBは、気候銀行ロードマップ 2021-2025の中で、次のような計画の概要を説明しています。すなわち、(a) 自行のグリーン・ファイナンスの定義を、EUタクソミー規則の枠組みの進展に合わせ段階的に整合させること、(b) EUの政策目標に実質的に貢献する融資業務に重点を置き、CAB/SAB適格範囲を漸進的に拡大することで、その整合性を資本市場に対して実証すること、(c) CABとSABを、EUグリーンボンド基準と段階的に整合させることの3点です。これらの計画は実行に移されつつあり、EIBはCAB/SAB関連の配分について透明性と信頼性の向上に取り組んでいます。結果的に、CAB/SAB枠組みは、配分とインパクトに関する報告を包含し、監査による合理的な保証を得ており、漸進的な開示プロセスの一部として、EIBの融資業務におけるEUタクソミーの適用状況を明らかにしています。

「EIBは、気候変動対策と環境サステナビリティ・ファイナンスのための追跡方法を、EUタクソミー規則の枠組みとその開発に合わせて漸進的に整合を図っていきます。まだEUタクソミーの対象となっていない環境と社会の持続可能性の分野では、当行は自らの専門知識をEUタクソミーの論理と構造に適用します。当行はこのアプローチを運用可能なものとする一方、タクソミーの有用性の問題につき情報収集するとともに、当初の基準を漸進的に改善するため、EUサステナブルファイナンス・プラットフォームにおける当行の経験を共有します」

プロジェクト局長 Gunnar Muent

「EIBは、発行するCABとSABについて、今後導入されるEUグリーンボンド基準に段階的に整合させるべく取り組んでいます。このプロセスは既に始まり、当行の融資業務へのEUタクソミーの漸進的な適用に基づいて、段階的に行われます。当行のCABとSABの枠組みにより、投資家はこの過程の進捗状況をモニタリングすることが可能です。そして、監督を受けている独立した外部監査人による合理的な保証 (ISAE3000) により信頼性が担保されています」

財務局長 Bertrand de Mazières

2020 CAB枠組みでは、気候変動緩和への実質的な貢献に関する2020 CAB技術的スクリーニング基準を、その年に欧州委員会技術専門家グループが提案した基準と比較したところ、CABの基準がEU基準と完全には整合的でないことが分かりました。最新の2021 CAB枠組みでは、2021年中にこの不整合が解消されたことが示されています。また、2022年1月1日から適用開始となったEUタクソミー気候関連委任規則に範囲を拡大して比較を行ったところ、2021 CAB基準がEUの規則と完全には整合的でないことが判断されました。2022年に当行はすべての融資業務について、前述したEU委任規則との不整合の解消を図っており、結果は2022 CAB枠組みにおいて監査される予定です。

「著しい害を及ぼさない」および「最低限のセーフガード」の分野においても、EIBは自行の環境的・社会的基準と、EUタクソミー規則第17条および第18条の規定との比較を初めて実施し、さらなる改善に向けた基盤を漸進的に整備しています。最後に、当行の改訂版インパクト・レポートは今や実質的な貢献に主な焦点を当てており、その他の情報は補完的位置づけとしています。このアプローチは、市場別の情報を標準化し効率的に利用するうえで役立ちます。

クリックして以下のサイトにアクセス
[2021 CAB枠組み](#) | [2021 SAB枠組み](#)

CABs および SABs — 主なポイント

- ✓ タクソミーおよびEUグリーンボンド基準との、早期かつ段階的でモニタリング可能な整合の確保
- ✓ 遵守: グリーンボンド原則、ソーシャルボンド原則およびサステナビリティボンド・ガイドラインの遵守
- ✓ 単一の分類: 配分は1つの主要な持続可能性目標にのみ帰属し、二重計上は不可
- ✓ 適格性の継続的審査: 融資承認時の決定、融資実行時の再評価
- ✓ 透明性: 配分は自動的に決定。新規支出に対してのみ配分し、借り換えには配分せず
- ✓ 説明責任: 調達資金の使途（債券ごと）および環境的・社会的インパクト（プロジェクトごと）に関する年次報告
- ✓ 信頼性: KPMGによる独立性を担保した合理的な保証報告書 (ISAE3000)
- ✓ AAA格のメリット: 他のEIB債と同順位のシニア無担保債
- ✓ 同種機関のリーダー: 国際開発金融機関の中でグリーン/サステナビリティボンドの最大の発行体であり、2022年末において22通貨建てで700億ユーロ相当を発行

免責事項

本資料は情報提供だけを目的としています。本資料は証券購入の申出または勧誘ではなく、また、本資料において示される情報は、何らかの契約上またはその他のいかなる種類の義務の根拠となるものではありません。EIBにより発行された証券は、米国証券法において登録されていない限り、米国において、または米国外に在る米国人に対して、提供または売却することができません。その他の国でも同様の制約を受けることがあります。本資料には、予想、見積り、予測および仮定に基づいた将来の見通しに関する記述が含まれています。こうした記述は将来のパフォーマンスを保証するものではなく、予想が困難な一定のリスクや不透明性を含んでいます。実際の将来の結果やトレンドはこうした見通しに関する記述で予想された内容と大幅に異なることがあります。本資料は、公表日現在に限定されたものであり、EIBには公表日以降に発生した事象、状況または予想の変更を反映させるよう本資料を更新する義務はありません。

欧州投資銀行
サステナブルファイナンス・チーム
98-100, boulevard Konrad
Adenauer
L-2950 Luxembourg
sustainablefinance@eib.org